

1 学校教育目標

○進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○学びの楽しさや喜びを発見できる学校 ○豊かな人間性を培う学校 ○健やかな心身を育む学校 ○地域・家庭と信頼で繋がる学校
○児童・生徒像	○主体的・自律的に学び、自ら考え、正しく伝えることのできる児童 ○自己を肯定し他者の人権を尊重できる人権感覚と、グローバル的視点でSDGsへの指向も備わった児童 ○心身ともに健康でたくましい児童 ○
○教師像	○専門職として優れた知識や技術を備え、研鑽に励む教師 ○児童、保護者、地域と幅広い人間関係を大切にできる教師 ○与えられた使命を見失わず、責任感と実践力を備えた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学びの実感とそれに伴う自己肯定感は、自分を大切にしてお互いを尊重できる豊かな心の源にもなる。学力向上は、安定した学校生活を築く土台であり、それに向けて教職員は、研修や多くの研鑽機会を重ね、従来の授業形態のアナログの良さとICT機器の持つデジタル的利点を活用し、ハイブリッドな授業作りに取り組む。タブレットの全員配布によるICT活用学習が加速されたが、反面SNS上における問題行動が社会的な課題となる現在、情報モラルを身に付けるためにも相手を思いやる人権感覚や社会性に関わるSDGs的視点を培い育むことも必須事項であると考えている。

混乱の続く世界情勢の中でこれからの子どもたちには、視野の広い社会人として必要な見識や判断力と実践力が求められる。道徳教育やSDGs活動を通して、それらを培っていきたい。そして、遠い世界を見回すだけでなく、周囲の人々である友人や家族、地域の方々と関わりを大事にできる心の柔軟性をもった知徳体のバランスの取れた子どもたちを育む教育体制の構築を目指す。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	正しい人権感覚を備えた豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	豊かなスポーツライフを実現させる資質能力の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎力の充実と応用力の伸長		区学力調査通過率 80%以上		区学力調査通過率 81.9 だった。		目標は達成できたが、学年によって未達成のものがある。なお、学習の定着状況と具体的な取組は、6 (1)を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の定着と発展的学習の推進	全学年 国・算	通年	・授業改善計画の設定 ・ICTデータの分析 ・補充指導体制の完備	・各学力調査 ・AIドリル等	・区学力調査通過率 80%以上 ・都全国平均値	国語 81.5、算数 82.3 だった。	つまずき解消のための取組をさらに充実させる。	○
2 継続	教員の授業力向上	全教員	通年	・校内外での研修の充実 ・教科担任制を意識した個別の研修姿勢の奨励。	・授業観察や教員間、児童の授業評価。	・授業評価 85 点以上	管理職による授業評価は 89 点だった。	教員間の授業観察をさらに充実させていく。	○
3 継続	学校図書館活用	全学年	通年	・学校図書館重点支援校として各種活動を展開させる。	・図書館活用計画に即した検証。	・平均読書冊数 ・作品提出率 ・肯定意見 9 割	昨年度より読書冊数平均 9 冊向上、研修年 7 回実施。	研修や図書館支援員の取組で充実できた。	◎
4 継続	SDGs への取り組み	全学年 生活全般	通年	・各教科、道徳、特活等の生活全般を通して関連性を明確にする。	・児童の学習記録や日常生活の変容等。	・意識調査アンケートによる肯定的回答 9 割	委員会活動を SDGs 関連にした。学習発表会で 4 年生実施。	特活での学校行事ではゴミ 0 に取り組んだ。	○
5 継続	ICT 活用の日常化	全児童 全教員	通年	・教職員の研修の充実 ・児童の活用の定着 ・家庭学習への導入	・教員相互の授業公開や研修の実施。	・日常の学校ツールとしての使用	校内研修を充実した。AIドリル月間以外で活用不十分。	教科や単元に応じて AI ドリルの活用をさらに充実させる。	△
6 継続	各種検定への取り組み	全児童 国・算・英語	通年	開かれた学校づくり協議会、PTA との共催による漢字・算数・英語検定	・受験者数 ・合格率	・全校児童の 3 割が受験 ・合格率 8 割超	漢字検定のみ実施。	P T A の負担感により、内容の精選が必要。	△

重点的な取組事項－2		正しい人権感覚を備えた豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他の生命と心を尊重できる均整のとれた公正な心の育成		生活への肯定的姿勢をもつ児童、QU調査等において生活満足度領域内にいる児童が9割を超える。	QU調査の結果、1回目の生活満足度領域内は58%だったが、2回目には60%だった。	クラスによって差が大きかったので、分析をしっかりとって対応していきたい。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
SDGs ターゲット 4.7 (ESD) の定着化	児童の9割がその主旨を理解し、肯定的な意見を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の充実 ・人権教育の推進 ・なかよし班活動 ・自然教室での環境学習 ・クリーン運動等の奉仕活動 ・ユニセフ募金等への参加 ・給食等を通しての食育 ・LGBTQ への正しい理解学習等について学校生活全般の中で、座学・体験・講演を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通してなかよし班活動の取組ができた。6年生中心に、縦割り班の活動が充実できた。 ・高学年の自然教室では、事前に自然や地域の特性を学習し、現地で深めることができた。 ・クリーン作戦では全学年が地域の公園等の清掃に意欲的に参加できた。 ・LGBTQ に関する講演会の開催ができた。(5・6年対象) 	どの活動も児童の意欲や姿勢・態度を高めることにつながった。次年度も継続していく。	◎
情報モラル教育	児童のタブレット使用における不適切な活用及びトラブルゼロ。	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティ教室の一環としてのテキストや動画、外部講師による講演等の機会設定。 ・アカウントの定期的な点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティ教室でSNSトラブルについて学ぶことができた。 ・SNSやタブレット使用によるトラブルがゼロだった。 	モラルはセーフティ教室だけでなく、人権・道徳教育においても継続して指導する。	○
キャリア教育	自己肯定感を持つ児童が全体の9割を超える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢デザインシート」を中心とした進路設計と意欲の向上 ・地域、保護者との連携による講演や外部機関の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇教室といった外部講師による授業が充実できた。相手の立場や見方・考え方を幅広く受け止める経験ができた。 	豊かな心の育成には非認知能力を高める取組も今後も大事にしていきたい。	◎

重点的な取組事項－3		豊かなスポーツライフを実現させる資質能力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心と体の連携を一体として捉え、主体的に運動に取り組み親しむ児童の育成。		<ul style="list-style-type: none"> 各運動領域の特性に応じた指導。 体育好きの児童が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科では学年の実態に応じて運動療育の特性に応じた指導ができた。 体育好きの児童が90%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特色として縄跳び、持久走は継続、投力向上事業を次年度設置する。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が夢中になれる体育授業への取組み	<ul style="list-style-type: none"> 毎回課題設定を行った授業を実施する。 体育の授業に肯定的な児童の意見が90%を超える。 	昨年度の校内研究で残されたデータを活用しながら、数年來定着しているコーディネーショントレーニングのもつ心と体のリレーションを活かした授業を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーショントレーニングを生かした授業はできた。学習における時間のバランスに課題が残った。 体育の授業に肯定的な意見は90%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳び、持久走は特色として継続し、投力向上事業を加える。様々な運動経験が楽しくできるよう計画する。 	△
体力調査結果の分析と課題への手立ての実践	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査結果が昨年度を上回ることを目指す。 結果が全国平均値またはそれを上回ることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果に基づいて各学年、学級単位での重点項目を設定する。 学年間での共通理解を図る。 	体力調査では、女子では多くの種目で都や国の平均値を上回った。男子はシャトルランや立ち幅跳びに課題が見られた。男女ともソフトボール投げは3年生以上で区を上回った。	低学年から多くの運動経験をさせるとともに、運動好きの児童を増やす。投力向上事業に取り組み、改善を目指す。	○
体育的活動の充実による日常的な運動習慣の定着化	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に運動に親しみ運動好きと解答できる児童が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流なかよし班活動の月1回の実施。 各季に種目の異なるスポーツ旬間の設定。 縄跳びをはじめ各種目のエキスパートとの交流体験の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月なかよし班活動を実施し、楽しく異学年で交流できた。 縄とびや持久走は学校全体で取り組み、充実することができた。 投力向上のため、日体大と連携して授業をすることができた。(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし班活動は豊かな心の育成に大きく関わることができた。 縄とび・持久走・投力を含め、様々な運動経験ができるよう今後も工夫する。 	○
健康保持増進への実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活習慣の励行。 各種検診後の治癒率を前年よりも上回る。 感染症予防への日常的な取り組み意識。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭への呼びかけも含めてその効用等が学べる機会設定 保健的行事での全教員の共通理解と組織的協力体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> うがい・手洗い、歯磨きの徹底。 歯科受診率がR5:52.4%に対し、R6:60.8%と向上した。 講師による薬物乱用防止教室と歯磨き指導(1・3・5年)の実施ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 受診率は保護者の影響が大きい、引き続き呼びかける。 外部講師による健康教育指導を継続して行う。 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・ **重点的な取組事項1**の学力向上に関しては、区学力調査で2教科平均81.9(国語:81.5、算数:82.3)だった。目標(80%)は達成できたが、学年によって課題が見られた。また、学校として、朝学習や放課後補習の取組に課題が見られた。夏休み中に研究推進部と管理職とで9月以降の学力向上プランの練り直しを行った。その結果、クラスごとの取組の方向性が整理でき、9月の区調査再テストでは、国語通過率:92.9%、算数通過率:91.4%になった。次年度も朝学習や放課後補習は学年ごとに学習課題を整理し、学習内容のポイントを絞って繰り返し取り組むようにしていく。ICTの活用については、タブレットを活用する教科・単元を整理し、AIドリル強化月間も含めて計画的に実施できるようにする。
- ・ **重点的な取組事項2**の豊かな心の育成に関しては、異学年交流や体験的な活動、〇〇教室といったキャリア教育を充実させた。子供たちは仲よく、協力的に活動することができた。また、クリーン作戦やLGBTQ講演会の実施等で地域や他者への関わり方を学び、考えを深めることができた。小学校教育での「豊かな心の育成」はとても大事だととらえている。次年度も重視して取り組んでいく。
- ・ **重点的な取組事項3**の豊かなスポーツライフの実現に関しては、学校としての取組(重点項目)を明確にするとともに、学年や児童の発達段階に応じて、様々な運動経験ができるよう計画・実施する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・ 保護者の皆様、地域の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきまして、ありがとうございます。登校時での見守り活動やPTAまつりの実施、開かれた学校づくり協議会の事業、各行事や学校公開への参加・ご協力等、大変ありがたく、感謝申し上げます。「笑顔×あいさつの西二」でこれからも子供たちの健全育成のため、教職員一同全力で取り組んでまいります。
- ・ 令和6年度は創立60周年の年になります。長年お世話なってきた皆様に感謝の気持ちを込めて、皆様にとってかけがえのない一年にしたいと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

- ・ 今年度の成果と課題を踏まえまして、次年度は「学力向上・教師の指導力向上・豊かな心と健やかな体の育成」の3本柱で取り組むことといたします。学校の推進力を高めるためには、教師の個の資質向上や組織力の向上が重要です。それは、未来を担う子供たちに対し、教師がパーソナリティを生かしながら、組織として同じ方向を向いて共同的に指導していくことです。西二小の教師の力をさらに高めたいと考えております。また、「笑顔×あいさつの西二」は教師にとっても大切なスローガンです。次年度もこのスローガンのもと取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。